



おやまの秋

園庭の奥にある高台を、私たち

は、「おやま」と呼んでいる。

大きな銀杏の木のあるその場所

は、子どもたちにとって、特別なと

ころ。

ゴザを敷き、みんなでお弁当を食

べれば、幼稚園にいながら遠足気分

を味わえる。

砂場ではできない堅い泥団子も、

ここならできる。

友だちとケンカをし、傷ついた気持ちでいるとき、

そつとひとりでおやまに出かけて、気持ちを立て直して

くる人も多い。

おやまは、私にとつても大事な場所。

所在なげに過ごしていたSちゃんに、どう声をかけ、

支えてあげたらいいのか、悩みながら一緒に過ごしてい

たとき、偶然、四つ葉のクローバーをみつけたものこの場所だった。

おやまの上のログハウスの屋根に子どもたちと座り、

近くなった空を見ながら、「子どもたちの今を大事にし

よう」と、心改めるのも、いつもこの場所だ。

十一月。

大きな銀杏の木は、その葉をはらはらと落とし、おや

ま全体を黄色い絨毯で包む。春、夏と、私たちの生活を

静かに見守っていてくれた銀杏の木は、毎年冬になる前

に、こうしてその存在をしつかり伝えてくる。

そして、ちょうどその頃、幼稚園は誕生日を迎える。

この環境に守ら

れ、育まれて生活

していることに感

謝したい。

(幼稚園勤務)

